室町時代

名前

問1　1200年から1270年までの、土地売買の支払いに用いられた品物の割合を示す統計において、1200年代初期は米が7割以上を占めていましたが、1200年代後半には布や米の割合が減少し、代わって中国から輸入されたある品物が決済手段の6割を超えるまで急増しました。この時、急速に普及した品物の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2016年 愛媛県公立入試 類似）

1. 大判・小判
2. 銅銭
3. 和同開珎
4. 寛永通宝

問2　室町時代の農村の様子や自治組織について説明した文として、最も適切なものはどれか。（2023年 大阪府公立入試 類似）

1. 自治の進展により、農民たちは「能」などの伝統芸能に関わることを禁じられた。
2. 商工業者が結成した「座」が、農村における年貢の徴収業務を独占した。
3. 幕府が任命した地頭が、寄合を主宰して村の掟を作成させた。
4. 農民たちは自衛のために武装し、寄合での決定に基づいて団結して行動した。

問3　室町時代、商人や手工業者が公家や寺社などの権力者に税を納めることで結成した同業者組織を何といいますか。（2026年 山形県公立入試 類似）

1. 株仲間
2. 惣
3. 座
4. 問丸

問4　15世紀ごろの琉球王国は、東シナ海の中央に位置する地理的条件を活かして繁栄しました。日本、朝鮮、中国（明）のほか、タイのアユタヤやベトナムといった東南アジア諸国の品物を仕入れ、それらを各地へ転売することで利益を得ていた貿易の形態を何といいますか。（2023年 沖縄県公立入試 類似）

1. 朱印船貿易
2. 南蛮貿易
3. 勘合貿易
4. 中継貿易

問5　14世紀から16世紀にかけて、日本や朝鮮半島、中国沿岸の広い地域で略奪や海賊行為を行っていた集団は、当時、東アジア諸国の大きな悩みとなっていました。室町時代、足利義満はこの集団と正式な貿易船を区別し、明との貿易を円滑に進めるためにある制度を導入しましたが、この集団の名称として正しいものを選びなさい。（2025年 沖縄県公立入試 類似）

1. 倭寇
2. 御家人
3. 土一揆
4. 遣明使

問6　室町時代、足利義満の保護を受け、父である観阿弥とともに猿楽を洗練させ、舞台芸術としての「能」を大成させた人物は誰ですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）

1. 雪舟
2. 世阿弥
3. 観阿弥
4. 近松門左衛門

問7　室町時代、中国の明との間で正式な国交を樹立し、日明貿易を開始した人物は誰ですか。この貿易によって大量の銅銭が日本に持ち込まれ、国内の貨幣経済が発展する契機となりました。（2019年 秋田県公立入試 類似）

1. 北条時宗
2. 平清盛
3. 豊臣秀吉
4. 足利義満

問8　室町時代の農村では、大勢の農民が協力して田植えなどの農作業を行う共同体意識が強まりました。こうした農村において、村の掟を定めたり、領主に納める年貢について相談したりするために開かれた、農民たちによる話し合いの場を何というか。（2016年 大阪府公立入試 類似）

1. 公事
2. 御用達
3. 奉行所
4. 寄合

問9　室町時代、近畿地方を中心に農民たちが自衛や用水の管理などを目的として結成した、自治的な村組織を何と呼びますか。（2025年 群馬県公立入試 類似）

1. 座
2. 株仲間
3. 問丸
4. 惣村

問10　室町時代、農村では有力な農民を中心に「惣（惣村）」と呼ばれる自治組織が作られました。この組織が行っていた活動やその特徴について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 長野県公立入試 類似）

1. 用水の管理や共同作業のための独自のルール（掟）を定め、寄合を開いて村の運営を自律的に行った。
2. 将軍の代替わりごとに、朝廷に対して忠誠を誓う儀式を村単位で主催し、幕府の地方支配を補佐した。
3. 朝廷から派遣された国司の指導のもとで、墾田永年私財法に基づいた土地の開墾を組織的に進めた。
4. 有力な武士の屋敷の周辺に集まり、城下町の原型となる市場を形成して、領主の許可なく自由貿易を行った。

問11　室町幕府の三代将軍足利義満が明と正式な国交を開き、貿易を開始した経緯と形式について、最も適切な説明はどれですか。（2023年 岡山県公立入試 類似）

1. 幕府が明から倭寇（海賊）の取り締まりを求められたことを受け、将軍が「日本国王」として明の皇帝に朝貢する形式で貿易を行った。
2. キリスト教の布教を目的とした宣教師の仲介により、長崎などの港を限定して特定の商人だけに貿易を許可した。
3. 日本の天皇が明の皇帝と対等な立場であることを示すため、国書を交換して自由な民間貿易を奨励した。
4. 元の侵攻を退けた軍事力を背景に、幕府が明に対して不平等条約を認めさせ、関税自主権のない貿易を一方的に進めた。

問12　足利義政が京都の東山に築いた別荘（慈照寺）にある、二層構造の木造建築物と、その時代の文化の特色について述べた文として正しいものはどれですか。（2019年 新潟県公立入試 類似）

1. 寝殿造の様式を取り入れ、貴族の優雅な生活を反映した平等院鳳凰堂に代表される、国風文化
2. 唐の影響を強く受け、国際色豊かな宝物が納められた正倉院などに代表される、天平文化
3. 禅宗の影響を受けた簡素で落ち着いた趣の建物である銀閣に代表され、わび・さびの精神を重んじる文化
4. 足利義満が建てた、建物全体に金箔を貼った豪華な金閣に代表される、公家文化と武家文化が融合した文化

問13　室町時代に広まった書院造が、それ以前の平安時代に主流だった寝殿造と大きく異なる点はどこにありますか。住宅の構造や設えの変化について正しく述べたものを選びなさい。（2016年 岡山県公立入試 類似）

1. 板敷きの床に円座を置いて座る形式から、床一面に畳を敷き詰める形式へと変化した。
2. 屋根に瓦を葺き、外壁を石造りやレンガ造りにすることで防火性を高める工夫がなされた。
3. 建物の周囲に池を作り、橋でつないだ複数の建物を回廊で結ぶ広大な造りへと変化した。
4. 部屋の仕切りをなくして開放的な空間を作り、カーテンのような布で空間を区切るようになった。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 銅銭	鎌倉時代の13世紀後半、日宋貿易などを通じて中国から大量に流入した銅銭が、日本国内の流通経済を支えるようになりました。それまで土地売買などの重要な決済は、米や布といった現物で行われていましたが、この時期を境に貨幣が交換の媒体として一般化し、貨幣経済が大きく発展したことを示しています。
問2	答え 4 農民たちは自衛のために武装し、寄合での決定に基づいて団結して行動した。	室町時代の惣村では、農民が自立して村を管理したため、自分たちの権利を守るために武装して土一揆（つちいっき）を起こすこともありました。この時期には、観阿弥・世阿弥による「能」が完成されるなど、文化が民衆の間にも広まりを見せていました。幕府や地頭が主導して寄合や掟が作られたわけではなく、農民による自律的な動きであった点が重要です。
問3	答え 3 座	室町時代に発達したこの組織は、公家や寺社に税（冥加金など）を納める見返りとして、商品の独占的な販売権や、関所の通行税免除といった特権を認められていました。江戸時代に幕府の公認を得て活動した「株仲間」や、鎌倉時代から室町時代にかけて運送業を営んだ「問丸」との違いを理解しておくことが重要です。
問4	答え 4 中継貿易	琉球王国は、自国の産物だけでなく、各国の特産品を一度集約してから別の国へ運んで売買する役割を担いました。これにより、アジア全域の物流を結ぶ拠点として機能し、首里城を中心とする独自の豊かな文化を築く原動力となりました。
問5	答え 1 倭寇	14世紀から16世紀にかけて活動した海賊集団は「倭寇」と呼ばれます。前期倭寇は南北朝時代の混乱に乗じて朝鮮半島などで活動し、後期倭寇は16世紀に中国人主導で密貿易などを行いました。室町幕府の3代将軍である足利義満は、明からの要求に応じて倭寇を取り締まるとともに、海賊と正式な貿易船を識別するために「勘合（勘合符）」という割印を用いた「勘合貿易」を開始しました。
問6	答え 2 世阿弥	室町幕府の第3代将軍である足利義満は、北山文化の時期に多くの文化人を保護しました。その中で世阿弥は、父の観阿弥とともにそれまでの猿楽（田楽や猿楽などの庶民的な芸能）を洗練された歌舞劇へと発展させ、現代まで続く「能」を完成させました。観阿弥は世阿弥の父、雪舟は室町時代の水墨画家、近松門左衛門は江戸時代の人形浄瑠璃の作者です。
問7	答え 4 足利義満	室町幕府の第3代将軍である足利義満は、明の皇帝から「日本国王」の称号を授かり、公式な貿易を開始しました。当時、日本国内では貨幣が鋳造されていなかったため、明から輸入された明銭（永楽通宝など）が、国内の商業取引において主要な通貨として流通しました。選択肢にある平清盛は平安時代末期に日宋貿易を推進した人物であり、時代が異なります。
問8	答え 4 寄合	惣の運営において、村の意思決定を行うための重要な集まりを「寄合（よりあい）」と呼びます。ここでは村の掟（村規約）の制定や、水利権の調整、領主への年貢納入方法などが議論されました。このように農民が自ら会議を開いて村を運営する仕組みは、武士の支配にただ従うだけでなく、村がひとつの団結した主体として行動するための基盤となりました。
問9	答え 4 惣村	室町時代になると、農民が団結して自立的に運営を行う「惣村」が形成されました。惣村では、村の神社などで「寄合」と呼ばれる会議を開き、入会地の管理や用水の配分、年貢の納入交渉などを共同で行いました。こうした自治の広がりは、当時の農民が社会的地位を高めていたことを示しています。
問10	答え 1 用水の管理や共同作業のための独自のルール（掟）を定め、寄合を開いて村の運営を自律的に行った。	室町時代の農村では、農業生産力の向上に伴い、水利権の調整や入会地（山林）の管理、さらに防犯などの必要性から、農民たちが団結して「惣」という組織を作りました。彼らは「寄合」と呼ばれる会議を通じて「掟」という独自の村の法律を定め、違反者を罰するなど、領主の支配とは別に自律的な村の運営を行いました。
問11	答え 1 幕府が明から倭寇（海賊）の取り締まりを求められたことを受け、将軍が「日本国王」として明の皇帝に朝貢する形式で貿易を行った。	14世紀、東アジア沿岸では倭寇と呼ばれる海賊集団の活動が活発化しており、新しく中国を統一した明は日本に対してその取り締まりを強く求めました。足利義満はこの要求に応じ、明の皇帝から「日本国王」に封じられる朝貢（ちょうこう）という形式をとることで、正式な国交と貿易を開始しました。これにより幕府は、倭寇による私貿易を排除して利益を独占することが可能になりました。
問12	答え 3 禅宗の影響を受けた簡素で落ち着いた趣の建物である銀閣に代表され、わび・さびの精神を重んじる文化	足利義政によって築かれた東山文化は、室町時代の後半に発展しました。三代将軍義満の北山文化が豪華であったのに対し、東山文化は禅宗の精神を取り入れた「簡素さ」や「落ち着き」を特徴としています。銀閣（慈照寺銀閣）はその代表例であり、一階部分は現在の和室の原型となる書院造の様式が見られ、武士や禅僧の生活様式が反映されています。
問13	答え 1 板敷きの床に円座を置いて座る形式から、床一面に畳を敷き詰める形式へと変化した。	平安時代の寝殿造は板張りの床が基本で、座る場所にだけ畳（円座など）を置いていました。しかし、書院造では部屋全体に畳を敷き詰めるようになり、さらに障子や襖によって部屋を明確に仕切る機能的な構造へと進化しました。これにより、接客や読書といった目的に応じた個別の空間作りが可能になりました。